

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 秋山 茂則
幹事 和田 正敏
会報委員長 佐野 寛

No. 18

自分を越えた眼を

LOOK BEYOND YOURSELF

1991~92年度 RI会長 ラジェンドラ・K・サプー

第456回例会 平成3年11月12日(火)晴

◇“我等の生業”

◇出席報告

会員 66(64)名 出席 48名
出席率 75%
前回 11月5日 (修正出席率)95.31%

◇ビジター紹介 7名

◇ニコボックス

秋山 茂則君 今日の笑顔。大谷さんよろしく。
黒須 一夫君 私のソ連見聞考をしゃべらせて頂きます。
大口 弘和君 ちょっといい事がありました。
加藤 大豊君、鈴木 理之君 誕生日祝い。
市原 数男君、笹野 義春君、魚津 常義君 結婚記念日祝い。

◇和田幹事報告

1. 本日例会終了後、指名委員会を開催致しますので、指名委員の方は1F 葵の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、10周年記念実行委員会を開催致しますので、実行委員の方はお残り下さい。

◇笹野親睦活動委員長報告

既にご通知がいていると思いますが、12月12日(木)家族懇親会は三沢あけみさんをお迎えしてディナーショーを行う運びとなりました。

皆様お忙しいことと存じますが、一人でも多くの方にお越し頂きますよう心よりお願い申し上げます。

◇大谷会長エレクト挨拶

笑顔で例会

「気軽に楽しく笑顔で例会」という会長方

針は素晴らしいことだと思っております。

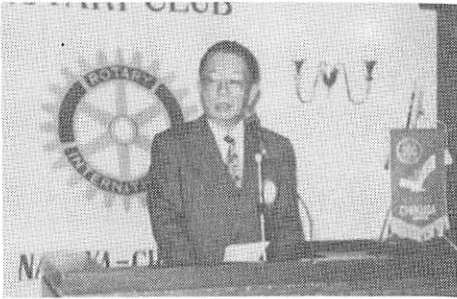
日本人は日常生活や対人関係では笑いを拒否し、まじめさを尊ぶ傾向があります。アメリカ人は公式の場にもジョークをとり入れますが、日本人がそれをするとな真面目と思われるがちです。日本人にはユーモアがないと言われるかもしれませんが、随分多くの笑いを持っています。

「古事記」の天の岩戸の前での「アメノウズメノミコト」の踊りにはじまり、狂言(能、茶番、俄)、笑話本、滑稽本、川柳、狂歌、落語、漫才など多くあります。江戸時代の笑話の本は約千種、小ばなしの数は6、7万と言われています。「川柳」は「川柳評万句合」だけで、33年間に230万句、「俳風柳多留」はその中から8万句を選んだものです。俳句でも一茶の「わが門に来さうにしたり配り餅」は配り餅を期待したのに、道を曲がって他所へいったという期待外れの笑いです。加賀千代の「蚊帳(かや)のすみ一つはずして月見かな」と四角、三角、丸がくみこまれ上品なウィットです。濁点のあるなしで内容が反転する狂歌「世の中は澄むと濁るのちがいにて刷毛に毛がありはげに毛がなし」。歌ではありませんが、「酒は百薬の長」といいます。下戸はシクシク、上戸はハッハ。4×9=36、8×8=64=100と面白くひっかけています。「吉四六」は大分県付近の民話の主人公です。キジを肩にのせ、風呂敷にカラスを包み、「カラスいらんか」と売って歩く。人はキジのことをカラスといっていると思いでまされて買う。人の心理の虚をついた笑いです。織田正吉氏は笑いに三種ある。人を刺す笑い(ウィット)、人を楽しませる笑い(コミック)、人を救う笑い(ユーモア)といっていますが、ユーモアに溢れた会話を、例会の度に楽しもうではありませんか。

◇講演

“私のソ連見聞考”

会 員 黒 須 一 夫 君



去年8月、家内とソ連のハバロフスク、キエフ、レニングラード、モスクワの4都市を団体旅行で見学する機会があった。そこで、小生が見聞した行列の波、日本人墓地、ソ連の兵隊(頁の関係で略)、ソ連人の日本観(略)などについて、私のソ連観を述べてみる。

1. 行列の波

日本でも有名になったが、マクドナルドの店の前に何100メートルの行列がつづいている。待ち時間は2～5時間とのことである。私からみると、毎日、毎日行列をつくっている庶民の辛抱力の強さに感嘆すると同時にソ連国民はほとんどの人が公務員と聞いている。行列に費やす時間は相当なもので、これは働かない時間である。国民の労働時間を相当無駄にしており、国家の再建をさげびながら、時間のロスは大いのではないかと思われる。この行列がなくならないかぎり、ソ連の経済再建は困難ではないだろうか。

2. 日本人墓地

われわれソ連の旅行団は、ハバロフスク空港近くの日本人墓地に参拝した。

墓地はソ連人墓地の1隅にあり、小さな平らな墓石は300柱位あり、1人づつ区切ってあり、名前が記してあった。

これらは日本人の墓参団により建てられたもので、昭和30年以降のものであった。これらの墓地はハバロフスク周辺だけで数10カ所もあるという。

飢餓と寒気、強制労働による疲労と病気により異国の地で死んでいった推定62,068名の日本人俘虜の方々のことを思うと、いい知れぬソ連の虐待に対する憤激と、亡くなった方々が味わった悲惨な境遇に対する痛恨の思いが、ソ連人ガイドをにらみつけるだけでは足りないように感じられ、罵倒したい気持ちを抑えることに苦労した。

せめてものつぐないに全員で草をむしり、手を合わせて御冥福を祈り、悪逆非道を行ったソ連政府の現在の破産状態と日本の戦後の復興を報告した。

◇R I ニュースより

ロータリアン誌で新情勢を

ロータリーの環境保全活動は続きます。ロータリアン誌10月号には、観光旅行産業において増えつつある「環境を配慮した旅行」(環境を破壊するというより環境を保全し守ることを目的とする休暇旅行)への特別記事を載せています。

トラベル・ライター・ジェリー・ネマニック氏は、大規模な観光旅行の発展について次のように概説しています。これは、ジェット機による旅行の到来で1960年代から始まり、航空機、リゾート・ホテル、パッケージ・ツアーの増加をもたらしました。また、観光客が押し寄せる多くの場所で問題を引き起こしました。

例えば、熱帯では、「北から旅行してくる太陽崇拜者が容赦なく殺到してくるため、微妙にバランスのとれた生態系がゆがめられる」とネマニック氏は述べています。大勢の人が訪れるため、熱帯以外の地域でも、困ったことが起きています。ヨーロッパでは、10億の人が、1990年代に、アルプスに押し寄せてくると推定されます。

ロータリアン誌の記事は、カリブ海、ハワイ、フロリダ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ各地の諸問題にも触れています。環境を大切に旅行を実施している団体の精選リストも載せています。

米国ペンシルベニア州トレイル・ロータリー・クラブ会員のトーマスE. バン・ハイニング氏は、ペンシルベニア州ラブルームのキーストン・ジュニア・カレッジ準教授で、たびと観光を専門としていますが、『環境を大切に旅行案内書』に次のように記しています。もし適切に扱うなら、環境を大切に旅行は、変わった休暇を求めている旅行者を楽しませることができ、その国の経済成長にとって大いにプラスになることができます。

ハイニング氏は、コスタリカ、メキシコ、ノルウェー、ケニアでの成功例を報告しています。

機関雑誌の10月号とともに、11月号も、充実したロータリー・ニュースをお届けします。経営の1手段としてビデオによる会議も掲載していますし、ポリス・プラスの10年も特集しています。

◇お知らせ

会員 加藤 大豊君が、11月14日付でシニア会員になられました。

◇次回例会 (11月19日)

“最近の遺言事情”

会 員 西 川 豊 長 君

◇次々回例会 (11月26日)

“Omni bás”

会 員 竹 内 真 三 君